

## 1 得点分布及び小問ごとの正答率

〈表1〉得点分布

| 得点    | 670人 |      |
|-------|------|------|
|       | 人数   | %    |
| 100   | 0    | 0    |
| 90～99 | 25   | 3.7  |
| 80～89 | 85   | 12.7 |
| 70～79 | 128  | 19.1 |
| 60～69 | 113  | 16.9 |
| 50～59 | 96   | 14.3 |
| 40～49 | 99   | 14.8 |
| 30～39 | 63   | 9.4  |
| 20～29 | 55   | 8.2  |
| 10～19 | 6    | 0.9  |
| 1～9   | 0    | 0.0  |
| 0     | 0    | 0.0  |

\*合格者の中から、無作為に抽出した670人(12.6%)の結果である。

〈表2〉小問別正答率(%)

| 大問  | 小問   | 正答率  |      |
|-----|------|------|------|
| 1   | 問1   | 85.7 |      |
|     | 問2   | 77.9 |      |
|     | 問3   | 57.0 |      |
|     | 問4   | 73.0 |      |
|     | 問5   | 57.9 |      |
|     | 問6   | 62.8 |      |
|     | 問7   | 69.9 |      |
|     | 問8   | 66.3 |      |
|     | 問9   | 54.2 |      |
|     | 問10  | 記号   | 70.4 |
|     |      | 理由   | 37.2 |
|     | 問11  | 45.9 |      |
| 問12 | 76.2 |      |      |
| 小計  |      | 63.8 |      |
| 2   | 問1   | 78.5 |      |
|     | 問2   | 69.0 |      |
|     | 問3   | 54.8 |      |
|     | 問4   | 54.9 |      |
|     | 問5   | 71.5 |      |
|     | 問6   | 51.9 |      |
|     | 問7   | 62.1 |      |
|     | 問8   | 46.6 |      |
|     | 問9   | 70.6 |      |
|     | 問10  | 73.6 |      |
|     | 問11  | 54.3 |      |
|     | 問12  | 23.6 |      |
| 小計  |      | 58.7 |      |
| 3   | 問1   | 81.5 |      |
|     | 問2   | 12.5 |      |
|     | 問3   | 80.9 |      |
|     | 問4   | 62.2 |      |
|     | 問5   | 31.8 |      |
|     | 問6   | 66.9 |      |
|     | 問7   | 39.1 |      |
|     | 問8   | 61.9 |      |
|     | 問9   | 58.7 |      |
|     | 問10  | 45.1 |      |
|     | 問11  | 14.9 |      |
|     | 問12  | 64.4 |      |
| 小計  |      | 54.2 |      |

## 2 分析結果の概要

分野別の正答率では、平成19年度は、地理的分野が高く、公民的分野の正答率が54%と大きく下がった。各分野とも正答率が低い小問もみられたが、難易度については概ね妥当であった。

出題形式別にみると、地理的分野において、地図を活用した小問の多くが、高い正答率となっている。公民的分野においては、我が国の内閣や裁判所などの小問に正答率の低いものがある。

大問別の正答率の経年比較は、次の通りである。

| 大問          | 平成15年度 | 平成16年度 | 平成17年度 | 平成18年度 | 平成19年度 |
|-------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 1 (主に地理的分野) | 61.4   | 68.9   | 77.0   | 65.3   | 63.8   |
| 2 (主に歴史的分野) | 50.8   | 64.1   | 62.5   | 68.1   | 58.7   |
| 3 (主に公民的分野) | 60.7   | 66.6   | 72.2   | 66.1   | 54.2   |

3 小問ごとの内容及びねらい

| 大問 | 小問  | 出題のねらい                                  | 主な観点 |      |      |
|----|-----|---|------|------|------|
|    |     |   | 知識理解 | 思考判断 | 技能表現 |
| 1  | 問1  | ロンドンを通る0度の経線の名前を選ぶことができる。               | ●    |      |      |
|    | 問2  | 正距方位図法の読み取りができる。                        |      |      | ●    |
|    | 問3  | ロサンゼルスと日本の時差をもとにロサンゼルスの経度を計算し、位置が特定できる。 |      | ●    |      |
|    | 問4  | 資料と説明文から中国に関する事項を選ぶことができる。              | ●    | ●    |      |
|    | 問5  | インドネシアの日本向け輸出資源を選ぶことができる。               | ●    |      |      |
|    | 問6  | 輸入農産物に対する日本の農家の対策が説明できる。                | ●    | ●    |      |
|    | 問7  | 近畿地方の地図をもとに京都の位置を理解している。                | ●    |      |      |
|    | 問8  | 近畿地方の県名と県庁所在地名を理解している。                  | ●    |      |      |
|    | 問9  | 平安京の特徴を現代の地図から読み取ることができる。               | ●    |      | ●    |
|    | 問10 | 地形図の読み取りができる。                           |      |      | ●    |
|    | 問11 | 歴史的風土や文化財の保存活用の法律を理解している。               | ●    |      |      |
|    | 問12 | 交通網の整備に伴う影響を考え、自分の立場の根拠を述べるができる。        |      | ●    | ●    |
| 2  | 問1  | 佐賀県の代表的遺跡名を理解している。                      | ●    |      |      |
|    | 問2  | 中国の影響を受けた正倉院の宝物を理解している。                 | ●    |      |      |
|    | 問3  | 室町時代の文化と出来事を理解している。                     | ●    |      |      |
|    | 問4  | 聖徳太子が建てた寺院名とその目的が説明できる。                 | ●    | ●    |      |
|    | 問5  | 元寇に関わるモンゴル帝国と日本の様子について理解している。           | ●    | ●    |      |
|    | 問6  | 4つの絵画の時代を理解し、時代順に並べることができる。             | ●    |      | ●    |
|    | 問7  | 16世紀の中国から日本への輸入品を理解している。                | ●    |      |      |
|    | 問8  | 江戸時代の鎖国の理由を理解している。                      | ●    | ●    |      |
|    | 問9  | 明治時代の欧米化の風潮を理解している。                     | ●    |      |      |
|    | 問10 | 日露戦争前の日本の外交政策について資料の風刺画を参考に説明できる。       |      | ●    | ●    |
|    | 問11 | 第一次世界大戦の講和条約後の世界の様子について理解している。          | ●    | ●    |      |
|    | 問12 | 国の主権が制約を受けることはどのようなことか説明できる。            | ●    | ●    |      |
| 3  | 問1  | 憲法第25条が生存権であることを理解している。                 | ●    |      |      |
|    | 問2  | 天皇の国事行為の主な内容を理解している。                    | ●    |      |      |
|    | 問3  | 衆議院の小選挙区制の仕組みを理解している。                   | ●    | ●    |      |
|    | 問4  | 二院制の長所を理解し、説明できる。                       | ●    | ●    |      |
|    | 問5  | 内閣や裁判所の仕組みについて理解している。                   | ●    |      |      |
|    | 問6  | 資料をもとに、司法制度改革の目的が説明できる。                 |      | ●    | ●    |
|    | 問7  | 景気調整のための財政政策と金融政策について理解している。            | ●    | ●    |      |
|    | 問8  | 企業の意味や活動内容を理解している。                      | ●    |      |      |
|    | 問9  | 需要・供給曲線の交点の名称を理解している。                   | ●    |      |      |
|    | 問10 | 価格と需要量の関係を説明できる。                        | ●    | ●    |      |
|    | 問11 | 構造改革特区の名称を理解している。                       | ●    |      |      |
|    | 問12 | 地震に強いまちづくりの具体的提言を表現できる。                 |      | ●    | ●    |

#### 4 標準解答及び考察

1

##### 〈標準解答〉

|    |                                  |    |   |    |        |    |   |    |   |
|----|----------------------------------|----|---|----|--------|----|---|----|---|
| 問1 | ウ                                | 問2 | イ | 問3 | 西経120度 | 問4 | ウ | 問5 | ア |
| 問6 | (例) 高度な生産技術を開発したり、品質や安全性を大切にします。 |    |   |    |        |    |   |    |   |

##### 〈考察〉

東京からの距離と方位が正しい地図を通して、資料活用能力や思考・判断をみる問題である。**問1**は正答率が85%を超え、本初子午線については定着がみられる。**問2**は正答率が78%であり、正距方位図法の読み取りについてもよく理解できていた。**問3**の時差から位置を計算する問題は正答率57%と理解が不十分であった。**問4**の中国に関する問いについては正答率73%で高かった。**問5**のインドネシア、マレーシア、オーストラリアからの日本への輸入資源の理解は58%で、鉄鉱石のウを選択したものが多かった。**問6**の日本の農家の輸入農産物への対抗策についての記述問題は正答率63%とやや低かった。

そこで指導に当たっては、正距方位図法など地図の特徴を踏まえた基礎的事項の学習を徹底するとともに、時差に関する計算の意味を十分把握させる必要がある。また、日本とアジアとのつながりに関する基本的な事項を押さえるとともに、グローバル化の視点から、貿易による我が国への影響や取り組みについて、説明できる力を身に付けさせることが大切である。

##### 〈標準解答〉

|     |   |    |    |    |                           |
|-----|---|----|----|----|---------------------------|
| 問7  | ②   | 問8 | 神戸 | 問9 | (例) 道路が基盤の目状につくられていることから。 |
| 問10 | エ (例) 25000分の1の地形図では、等高線は10m異なるごとに引かれるから。           |    |    |    |                           |
| 問11 | 古都保存法 (文化財保護法)                                      |    |    |    |                           |
| 問12 | a の例：観光客が増え、地域が活性化する。<br>b の例：飛行機など現在ある交通機関の利用者が減る。 |    |    |    |                           |

##### 〈考察〉

「修学旅行」の事前学習を通して、近畿地方や京都市の行政区分、地形、景観などについて、資料や地図を読み取る力や基礎的な知識・理解を問う問題である。**問7**の正答率は70%近くあり京都府の位置についてはよく理解していると考えてよい。**問9**の正答率は54%であり低かった。また、**問10**の地図の読み取り問題は37%ときわめて低く、地図の読み取りと歴史的分野の学習を関連付けて述べることを苦手としている。**問11**も正答率が46%で、法律名を正確に答えられる受験生が少なかった。**問12**の賛成か反対かの意見を表現する問題は76%と高かった。

そこで指導に当たっては、日頃の学習で地図・地形図を読み取らせる場を設定し、内容をまとめたり発表したりする活動を取り入れることが大切である。また、地理的分野と歴史的分野の学習や時事的な事象と関連付けて考えさせるなどの工夫が必要である。例えば、地理的分野の授業の際に、年表を用いて歴史的分野と関連付けたり、学習の導入に新聞記事を用いたりすることなどが考えられる。

2

##### 〈標準解答〉

|    |   |    |               |    |   |    |                       |
|----|---|----|---------------|----|---|----|-----------------------|
| 問1 | エ | 問2 | ア             | 問3 | ア | 問4 | (例) 仏教を広めるためにつくられた法隆寺 |
| 問5 | エ | 問6 | ア → エ → ウ → イ |    |   |    |                       |

##### 〈考察〉

歴史の授業で歴史カルタを作る設定で、歴史に関する重要事項の知識・理解、資料活用能力などをみる問題である。

昨年は**問5**を除いては70%を超す正答率であり全体的に正答率は高かったが、今年度は、平均点で10ポイント下がり、難しい問題となった。また**問3**・**問6**のような個々の歴史事項は理解しているが、時代のつながりや歴史の流れの理解が不十分な状況は、昨年と同じような結果となっている。

そこで指導に当たっては、歴史の大きな流れの理解の定着のために、通史だけではなく、政

治・文化・経済などの側面で時代の流れを追う学習や、指導者が多様な資料を用いて、多面的・多角的に考察させる指導が必要である。

〈標準解答〉

|    |      |     |   |     |                                     |
|----|------|-----|---|-----|-------------------------------------|
| 問7 | イ    | 問8  | ア | 問10 | (例) イギリスと同盟を結び、ロシアに対抗した。            |
| 問9 | 文明開化 | 問11 | ウ | 問12 | (例) 連合軍に占領され、その指令のもとに政治がすすめられていたこと。 |

〈考察〉

近世から現代まで、政治・経済・外交などにわたって基礎的・基本的な内容をもとに、社会的思考力や判断力、資料活用能力をみる問題である。

例年、日本の歴史と世界の歴史のつながりについての認識が受検生には不足しているが、なかなか改善されていない。中学校の歴史の教科書では世界の歴史に関する記述が少ないが、我が国とのつながりについての基礎的・基本的事項については確実な定着が望まれる。また、近現代史の学習時間が不足している場合は、授業の年間計画の見直しも必要である。特に、占領下の日本についての説明は、正答率が24%とかなり低かった。戦後については時代的な風化が懸念されている。

そこで指導に当たっては、国民が苦難を乗り越えて新しい日本の建設に努力したことについて気づかせ、実感的にとらえさせる手だてが必要である。

3

〈標準解答〉

|    |                                     |    |   |                 |   |    |   |
|----|-------------------------------------|----|---|-----------------|---|----|---|
| 問1 | 生存権                                 | 問2 | エ | 問3              | ア | 問5 | イ |
| 問4 | (例) 慎重な審議によって衆議院の行き過ぎをおさえることができるから。 |    |   |                 |   |    |   |
| 問6 | (例) 弁護士や裁判官を増やす。                    |    |   | (例) 裁判の迅速化をはかる。 |   |    |   |

〈考察〉

「日本国憲法」の学習を終えての感想ノートを通して、主に我が国の政治の仕組みに関する基本的事項や今後の課題などについて、理解力や表現力などをみる問題である。

ここ数年は正答率が高い公民的分野であったが、正答率は大幅に低くなった。問2の国事行為の内容は13%と極端に低かった(全小問中最低)。また、問5の内閣と裁判所の特色についても32%と低かった。基礎基本の定着をしっかりと図る必要がある。問6の資料を活用した改革の目的を問う問題は67%と正答率が高く評価できる結果であった。

そこで指導に当たっては、民主政治とそれを支える国民という観点から、基本的用語やそのしくみについて正確に理解させる指導が必要である。

〈標準解答〉

|     |                                   |     |                         |    |      |
|-----|-----------------------------------|-----|-------------------------|----|------|
| 問7  | ウ                                 | 問8  | イ                       | 問9 | 均衡価格 |
| 問10 | (例) 商品の価格が高いと需要量が減り、安いと需要量は増えるから。 |     |                         |    |      |
| 問11 | 構造改革                              | 問12 | (例) 避難場所や避難経路の確保・整備を行う。 |    |      |

〈考察〉

「市場経済のしくみ」についての感想から、経済の仕組みや現在の日本経済の課題についての理解力・思考力・判断力・表現力・資料活用能力をみる問題である。

資料から思考力をみる問10の正答率は45%であり、価格と需要量に関する基本的な問題であるが、価格を基準に考える視点が十分に押さえられていない。また、「まちづくりを調べる」では、「構造改革」の正答率が、15%とかなり低かった。時事的な用語については押さえておく必要がある。問12の「地震に強いまちづくり」について自分の考えを問う問題では、解答の表現力に大きな差があり、日頃から考えをまとめさせ、発表させる場の設定を行うことが重要である。

そこで指導に当たっては、新聞などを積極的に活用し、現実の社会と授業を結びつけることで、社会認識を養い、公民的資質を育成することが望まれる。